

名古屋市の環境を考える市民ワークショップ ～みんなが考える「環境+1（プラスワン）」で2030年のなごやをもっと魅力的に！～ 【開催結果】

－ 開催概要 －

【開催日時】

2019年7月20日（土）10:00～12:00

【開催場所】

エコパルなごや（名古屋市環境学習センター）

【開催目的】

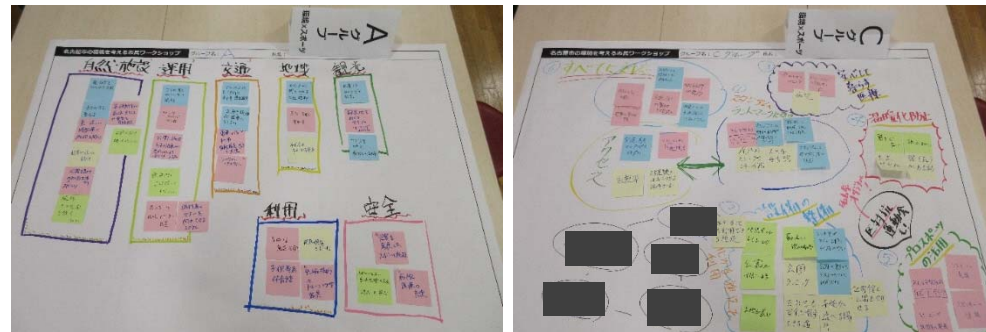
○「第4次名古屋市環境基本計画」の策定にあたり、2030年の名古屋市の環境に対する市民の想いや課題解決に向けたアイデアを聞く

【開催内容】

- 「名古屋市総合計画 2030-世界に冠たる「NAGOYA」へ（案）」に基づく環境分野のめざす都市像、重点戦略の説明
 - 環境・経済・社会を統合的に向上するまちを目指し、直面している多くの課題解決に向けて、「環境」と「スポーツ」、「環境」と「観光」を結び付けた「環境+1（プラスワン）」のアイデアについて、4つのグループに分かれてグループワークを実施
- ※コーディネーター：名古屋市立大学大学院人間文化研究科 曾我幸代准教授

－ ワークショップの結果 －

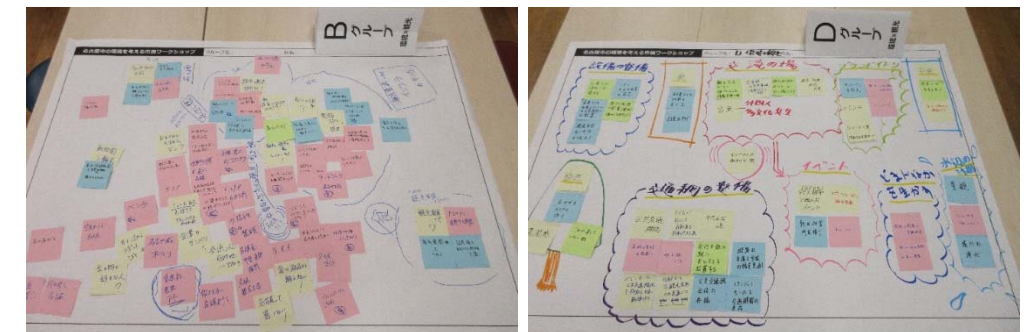
環境×スポーツ



【主な意見】

- 各スポーツ施設で創エネ・省エネに取り組み、電力の自給自足を目指す。
- 堤防は、走りやすい（足への負担の少ない）環境とするため、土の地面を残す。
- プロスポーツチームのサポーターの中から、ごみの分別やマナー向上に取り組む環境サポーターを選出する。
- スポーツ施設へのアクセス（公共交通機関の利便性）を向上させる。
- 給水の水やお土産物などに地産地消を取り入れる。
- 観光地や自然景勝地をめぐるマラソン、ツーリングイベントを開催する。
- 多様なスポーツ利用のできる公園・緑地があると良い。子育て支援や教育・保育の面からも重要である。
- （気候変動の影響への適応策として）熱中症対策も必要である。
- 屋外で気持ちよくスポーツをするためにも、大気汚染対策は重要である。 など

環境×観光



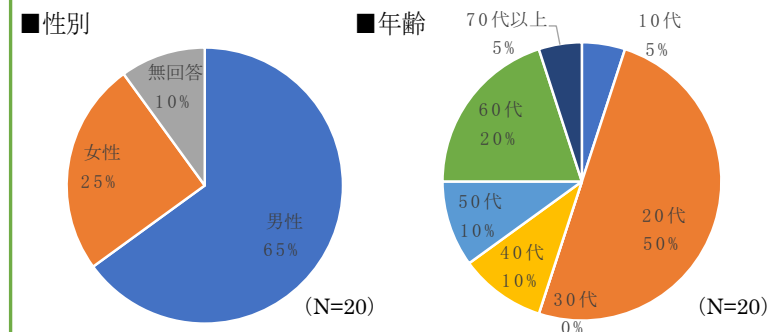
【主な意見】

- 「名古屋らしさ」を考え、伝えていくことが重要である。
- 食に関して、公園でなごや飯や日本酒、世界中の料理が楽しめたりすると良い。
- 都市農園とグルメを組み合わせるのも面白い。
- 水辺、ウォーターフロントを利用したまちづくり、観光振興ができると良い。
- 名古屋の夏は暑い。街中を風が吹き抜け、気持ち良く過ごせる環境をつくる。
- 街路樹や水辺を組み合わせ、散策が心地よいまちにしたい。
- 空き家を利用し、コミュニティ施設やゲストハウスを増やす。
- 東山動植物園、藤前干潟、名古屋城をより楽しめる場所にする。
- 給水器や給湯器を配置し、マイボトルの使用を増やす。
- 外国人も含めて、市民と観光客、観光客同士が交流できる場・機会をつくる。観光客がマナーについて学べる場にもする。
- 公共施設に資源ごみの収集ステーションを設置する。
- 木陰をつくって涼しいまちに、ごみの落ちていない清潔なまちにする。
- 堀川の浄化や、川を活用したまちづくりに取り組む。
- 他都市と連携したイベントを行う。
- 公共交通網の見直しや、トランジットモールの導入に取り組む。 など

－ 参加者と当日の様子 －

【参加者】

名古屋市内に在住又は在勤（在学）の方 20名



■参加した理由（上位3項目）

- ①環境の取組に関心があったため 7人
- ②テーマに関心があったため 5人
- ワークショップに関心があったため 5人

■市民ワークショップを知ったきっかけ（上位3項目）

- ①知人からの紹介で知った 11人
- ②チラシを見て知った 2人
- 広報なごやを見て知った 2人



（当日の様子）

（発表の様子）



－ アンケート結果 －

【その他の意見（感想、環境に関する意見）】

- 貴重なワークショップの機会であった。学生の参加も多く、幅広い年代層の意見を聞くことができて良かった。
- 普段はできない話し合いができた。よく計画されていて、充実した意見交換ができた。
- とても良い勉強になった。こういった機会をもっと増やして欲しい。
- 参加者が多くなく、市民の意見を十分に集めるものにはなっていないのではないかと。
- グループワークの際に、ファシリテーターがいると良かった。
- 名古屋市の環境に関する取組、SDGs 達成に向けた取組に期待する。
- 自動車を利用しなくても生活できる環境をつくって欲しい。
- 東京でも大阪でもない名古屋の良さを磨き、市民にとっても観光客にとっても良いまちになって欲しい。 など

■2030年のなごやの環境都市像として望む姿

